

黒石市地震防災マップに関するQ&A

① 地震防災マップについて

- Q1. 地震防災マップとは何ですか。 2
- Q2. これらのマップをどう活用したらよいですか。 2
- Q3. 黒石市に大地震が起こる可能性はどのくらいありますか。 2
- Q4. 想定した地震のうち「内陸型地震」を採用したのはどうしてですか。 2
- Q5. この地震防災マップは入手することができますか。 3

② 揺れやすさマップについて

- Q6. 揺れやすさとは何ですか。 4
- Q7. 黒石市は震度 6 弱～7 となっていますが、黒石市が揺れやすい地域ということですか。 ... 4
- Q8. 市街地の揺れが大きいのはどうしてですか。 4
- Q9. 自分の住む地域は揺れが大きい地域となっていて心配です。どうしたらよいですか。 4

③ 地域の危険度マップについて

- Q10. 地域の危険度とは何ですか。 5
- Q11. 危険度が高い地域にある建物は、大地震によって全壊してしまうのですか。 5
- Q12. 危険度が低い地域にある建物は、耐震改修が不要ですか。 5
- Q13. マップで色が塗られていない部分があるのはどうしてですか。 5
- Q14. 業者に、これらのマップを提示され、建物の耐震補強を勧められましたが、どうしたらよいですか。 5

④ 用語の解説

- Q15. 50mメッシュとは何ですか。 6
- Q16. 緊急輸送道路とは何ですか。 6
- Q17. 活断層とは何ですか。 6
- Q18. 震度階級と計測震度とは何ですか。 6

問合せ先 黒石市 建設部都市建築課 TEL 0172-52-2111 平成 28 年 3 月
--

①地震防災マップについて

Q1. 地震防災マップとは何ですか。

地震防災マップは、「揺れやすさマップ」と「地域の危険度マップ」の2つのマップで構成されています。これら2つのマップは、大きな地震が起こった場合、お住まいの地域やよく行くところがどれだけの強さの揺れに見舞われ、建物被害を受ける可能性があるかを示したものです。地震防災マップにより、市民のみなさんに住宅の耐震化や地震に対する備えを、身近な地域の問題として考えていただくために作成しました。

Q2. 地震防災マップをどう活用したらよいですか。

マップには黒石市の避難所や地震に対する備えなど、防災に関する情報が記載されています。これらを活用し、普段から防災について家族全員で話し合っておくことが大切です。

例えば… 「避難する場所、避難ルートの確認」

「非常時の安否確認の方法」

「非常備蓄品の準備」

「住まいの耐震性の確認」 など

Q3. 黒石市に大地震が起こる可能性はどれくらいですか。

一般に地震の発生を予知することは困難とされていますが、文部科学省の地震調査研究推進本部によると、想定した地震の発生確率は下表のようになっています。また、地震防災マップで採用した「①内陸型地震」の発生確率は非常に低くなっています。

ただ、地震はいつどこで起きるか分かりませんので、日頃からの備えが必要です。

＜想定地震の地震発生確率＞

算定基準日平成23年1月1日での地震発生確率です。

想定地震	今後30年以内	今後50年以内	参考とした断層・地震等
①内陸型地震	ほぼ0%	ほぼ0%	津軽山地西縁断層帯（南部）
②太平洋側海溝型地震	0.5～10%	40～50%	三陸沖北部
③日本海側海溝型地震	ほぼ0%	ほぼ0%	青森県西方沖の地震

出典：地震調査研究推進本部（文部科学省）地震に関する評価

Q4. 「内陸型地震」が黒石市に最も影響が大きいのはなぜですか。

内陸型地震は、市の西側にある黒石断層を含む津軽山地西縁断層帯を参考に想定されています。黒石断層は東北自動車道路沿いに市街地の近くを縦断しているため、この断層による地震が発生した場合、黒石市に最も大きな被害をもたらすと考えられます。

Q5. この地震防災マップは入手することができますか。

地震防災マップの配布は行っていません。建設部都市建築課及び市内各公民館に掲示しています。

縮小版が欲しい方は建設部都市建築課に備えていますのでお尋ねください。

また、黒石市ホームページでダウンロードすることもできます。

②揺れやすさマップについて

Q6. 揺れやすさとは何ですか。

揺れやすさとは、想定地震が発生した場合の「揺れの大きさ（震度）」です。このマップでは、内陸型地震（M7.2）が起こった場合の揺れの大きさを表しており、市街地のある平野部の揺れが大きく、山地部の揺れが小さくなっています。

Q7. 黒石市は震度 6 弱～7 となっていますが、黒石市の地盤が揺れやすいということですか。

揺れやすさとは、想定地震が発生した場合の「揺れの大きさ（震度）」を表しており、地盤の強さを表しているものではありません。

Q8. 市街地の揺れが大きいのはどうしてですか。

このマップは、内陸型地震が起こった場合の震度を表しています。内陸型地震は、市の西側にある黒石断層を含む津軽山地西縁断層帯を参考に想定されています。黒石断層は東北自動車道路沿いに市街地の近くを縦断しているため、この断層による地震が発生した場合、市街地で大きな揺れが起こると考えられます。

Q9. 自分の住む地域は揺れが大きい地域となっていて心配です。どうしたらよいですか。

まずは、建物の耐震診断を行い、お住まいの建物の耐震性を確認することをお勧めします。特に昭和 56 年以前に建てられた旧耐震基準による建物は、耐震性が低く大きな地震により全壊する可能性が高くなります。

市では、耐震診断支援事業を行っていますので建設部都市建築課（TEL 0172-52-2111）までお問い合わせください。

③地域の危険度マップについて

Q10. 地域の危険度とは何ですか。

地域の危険度とは、想定地震が起こった場合の「建物被害の状況（建物全壊率）」です。このマップでは、内陸型地震（M7.2）が起こった場合の建物全壊率を表しており、揺れの大きい市街地での危険度が高くなっています。

Q11. 危険度が高い地域にある建物は、大地震によって全壊してしまうのですか。

危険度は、その地域の建物の全壊率を表しており、個々の建物の全壊率を表しているものではありません。建物の被害に関しては、建物の形状など様々な要因が関係するので一概には言えませんが、危険度が高い地域であっても、昭和 56 年以降に建てられた建物など、比較的新しい建物は全壊する可能性が低くなります。

Q12. 危険度が低い地域にある建物は、耐震改修が不要ですか。

危険度が低い地域であっても、古い建築基準が適用されていた昭和 56 年以前の建物などは、地域の危険度に関わらず、専門家による耐震診断をし、現行の基準に適合するか確認することをお勧めします。現行の基準に満たない場合、耐震改修等をお勧めします。

Q13. マップで色が塗られていない部分があるのはどうしてですか。

危険度は、その地域の建物の全壊率を表しています。このため、建物のない範囲には危険度がないため色が塗られていません。

Q14. 業者に、これらのマップを提示され、建物の耐震補強を勧められましたが、どうしたらよいですか。

地震がいつ起こるか正確に知ることは難しいとされています。また、阪神・淡路大震災では、犠牲者の約 8 割以上が住宅等の倒壊による圧死となっています。

このため、お住まいの建物の耐震性を確認しておくことは大切なことです。安心して耐震診断・耐震改修を行っていただくために、市では、耐震診断支援事業を行っていますので建設部都市建築課（TEL 0172-52-2111）までお問い合わせください。

④用語の解説

Q15. 50mメッシュとは何ですか。

黒石市内を 50m毎に区切り、50m四方の升目を 1 つの単位とするものです。

Q16. 緊急輸送道路とは何ですか。

緊急輸送道路とは、地震等の災害時に円滑な避難のために通行を確保すべき道路として、青森県地域防災計画において指定された道路です。

＜緊急輸送道路の区分＞

第一次緊急輸送道路	県庁舎、生活圏中心都市の市役所、空港、港湾、生活圏中心都市の鉄道駅前広場、広域物流拠点（大規模市場）を連絡する道路
第二次緊急輸送道路	各市町村庁舎間を連絡する道路

Q17. 活断層とは何ですか。

過去に繰り返し活動し、今後も再び活動すると考えられる断層です。活断層では、通常約千年から数万年に 1 回の割合で地面がずれ、その時に地震が発生します。市の西側にも黒石断層が存在しています。

Q18. 震度階級と計測震度とは何ですか。

地震が起こったとき、ある場所での揺れの程度を表すのが震度です。

「計測震度」とは、気象庁が発表する、震度を観測するための「震度計」による計測値（計測震度）です。「震度階級」とは、計測震度を 0～7、震度 5 と 6 をそれぞれ震度 5 弱、5 強、6 弱、6 強の 10 階級で表したものです。

＜計測震度と震度階級＞

震度階級	計測震度	震度階級	計測震度
0	0.5 未満	5 弱	4.5 以上 5.0 未満
1	0.5 以上 1.5 未満	5 強	5.0 以上 5.5 未満
2	1.5 以上 2.5 未満	6 弱	5.5 以上 6.0 未満
3	2.5 以上 3.5 未満	6 強	6.0 以上 6.5 未満
4	3.5 以上 4.5 未満	7	6.5 以上

出典：気象庁「計測震度の算出方法」